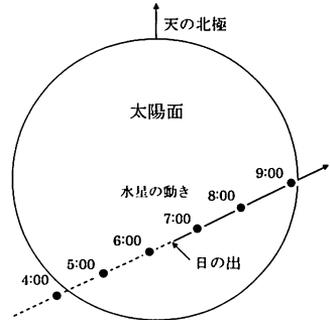


2006年 注目の天文現象

新しい年が始まります。2006年はどうのような天文現象が起きるのでしょうか。5月には肉眼で彗星が見えるかもしれません。9月には部分月食、11月には3年半ぶりに水星の太陽面通過が起こります。今年注目の現象を紹介しましょう。

<水星の太陽面通過>

11月9日には、水星の太陽面通過という現象が起こります。これは、水星が太陽の表面を通り過ぎてゆく現象です。次回に日本で見られる水星の太陽面通過は2032年までありません。水星が太陽を横切り始めるのは4時12分ですが、日の出前なので見えません。日の出の直後の6時41分に食最大となり、9時10分に通過が終わります。観測は望遠鏡に太陽投影版をつけて行います。肉眼では見えませんので、絶対に太陽を直接見ないようにして下さい。



<73P/シュワスマン・ワハマン第3彗星>

シュワスマン・ワハマン第3彗星は1930年に発見された公転周期5.36年の彗星で、1995年に核が分裂したことで知られています。5月12日には地球から0.08天文単位の距離まで近づきます。このときの明るさは、4等級ぐらいになるのではないかとされています。日本では深夜から明け方にかけて観測することができます。彗星の明るさや尾の長さは予報することが難しいですが、うまくいけば肉眼でも見ることもできるかもしれません。

<日食・月食>

今年は2回、日食が起こりますが、残念ながらどちらも日本では見る事ができません。3月29日には、アフリカから中央アジア方面で皆既日食が見られます。皆既の継続時間が4分以上と、大変条件のいい日食です。友の会でも、エジプト日食ツアーが組まれています。9月22日には金環日食がありますが、南アメリカ北部の一部の地域でしか見る事ができません。

9月8日には部分月食が起こります。欠け始めが3時5分、食の最大が3時51分、欠け終わりが4時37分です。明け方ですので、早起きして見る必要があります。月の欠け具合はあまり大きくなく、月の直径の19%が地球の影に入ります。



<プレアデス食>

今年から数年間は、月がプレアデス星団（すばる）を隠す食が起こりやすくなっています。11月7日未明、および大晦日の12月31日の夜、月がすばるの星々を通過していくのが観測できます。月が明るいため肉眼では難しいですが、双眼鏡を使えば簡単に見ることができます。

<惑星のうごき>

水星はいつも太陽に近いので、夕方の西の空か、明け方の東の空にしか見ることができません。動きも早いので、観測しやすい時期は限られています。（右の表参照）

2006年に水星を見やすい時期	
夕方の西の空	明け方の東の空
2月後半	4月前半
6月	8月前半
10月前半	11月後半～12月前半

金星は、今年は主に明け方の東の低空に見えます。1月下旬ごろから明けの明星として見えるようになり、2月17日にはマイナス4.6等級の最大光度になります。その後は暗くなりながら、9月ごろまで見ることができます。年末には宵の明星として見えるようになります。

火星は、昨年10月末に接近して以来遠ざかりつつあり、9月30日には地球との距離が最遠となります。年初の数ヶ月は夕方の西の空に明るく輝いており、8月頃までは夕方に見ることができます。その後は太陽に近いため、見えなくなります。

木星は、今年のはじめは明け方に東の空に見えています。5月5日に衝（地球から見て太陽の反対方向にある状態）になり、一晩中見える観望好機となります。5月～7月頃は、夕方の空によく見えるようになります。11月以降は太陽に近づき見えなくなります。

土星は1月28日に衝になりますので、年の前半は夕方の西空で見やすくなります。7月～8月は太陽に近くて見えませんが、10月以降は明け方に見えるようになります。

6月下旬には、夕方の西の空で火星と土星、そして水星が非常に近づくのが見えます。特に6月27日～28日にはその近くに月もやってきます。

<流星>

8月13日の**ペルセウス座流星群**は、明るい月があるためあまり条件はよくありませんが、郊外なら1時間に30個程度は見えると思われます。12月14日前後の**ふたご座流星群**の日は下弦の月のため、月が昇ってくる夜半前の観測条件はまずまずと言えます。

（江越航：科学館学芸員）